

Viva Arte No.5

文化研究講座 ～5/25 赤坂達三&桑山哲也LIVE～

文研をより楽しむために、ちょっとした知識やおすすめの曲を学生の視点からわかりやすく紹介します！

今回は、今年度第5回の文化研究講座。

クラリネットとアコーディオンの魅力、映画『シェルブールの雨傘』と、ドビュッシーの『子どもの領分』を紹介します♥

***** クラリネットについて *****

「クラリネットをこわしちゃった」はフランス民謡

パパからもらったクラリネットの音が出なくなっちゃった、と焦る様子が楽しいこの歌は、フランス民謡を日本語に訳したものだ。おなじみの「♪オーパッキャマロード」の部分は発音がおもしろくて訳者がそのまま残したそうです。実際は「Au pas camarade」と書いて「友よ、さあ行こう」の意味だとか。「整列！」の掛け声にも使われる言葉なので、音が元に戻るようお願いしているのかも。

クラリネットの魅力

やわらかい音や暗い音、不気味な音、甲高い音など、こんなにもたくさんの音色が出せる楽器は他にないかもしれません。しかも、消えてしまいそうな小さな音から、オーケストラにも負けにくいくらい大きな音まで、音の大きさも自由に変えることができるのです。



クラリネットは5つの部分からできています。上から順に、マウスピース、バレル、上管、下管、ベルといいます。マウスピース以外は、グラナディアという木からできています。グラナディアはアフリカのタンザニアやモザンビーク辺りのサバンナに生えています。とても硬く、水に沈むほど重い木で、ほとんど真っ黒に見えます。

クラリネットの上管と下管には、金属の小さな部品がたくさんついています。すべて分解すると、212個の部品に分かれるそうです。クラリネットを作る人は大変ですね。

現在使われているクラリネットにはエーラー式とベーム式の2種類があります。

ベーム式クラリネット……………19世紀半ばにベームが考案した方式のクラリネット。エーラー式に比べてキーが少なく指使いがとても簡単です。今では日本を含め、世界中で使われています。

エーラー式クラリネット……………モーツァルト、ウェーバー、ブラームスなどの大作曲家が活躍した時代の方式を受け継いだクラリネット。現在もベルリン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめ、ドイツやオーストリアで広く愛用されています。

クラリネットの歴史

クラリネットの祖先は、今から 2500 年ほど前の古代エジプトにまでさかのぼることができます。その後の時代にも、今より簡単な形のクラリネットが、ほぼ世界中で使われていました。はじめ、クラリーノという楽器の代わりに使われたので、クラリネットという名前になりました。

1700 年から 1800 年頃まで、クラリネットには 2 つ～5 つのキーしか付いていなかったため、きれいに吹ける半音が少ししかなく、シャープやフラットがたくさんついた曲は吹けませんでした。そのため、クラリネットを少し短くしたり、少し長くしたりして、それぞれの調が吹けるように、いろいろな高さのクラリネットを作っていました。作曲家が書いたものに合わせて、クラリネットはどんどん進化したのですね。

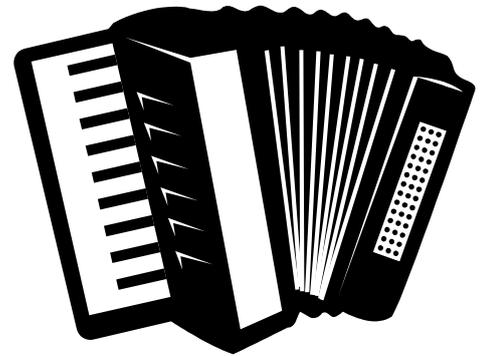
***** “アコーディオン” と桑山哲也氏 *****

日本名は“手風琴”

蛇腹を伸縮させながらボタンや鍵盤を押して音を出すアコーディオン。左手のボタン一つで和音（アコード）ができることからアコーディオンと呼ばれています。

アコーディオンの蛇腹のように伸縮して開閉するために、アコーディオンドアやアコーディオンカーテンなどの言葉もありますよね。

桑山哲也氏の演奏するアコーディオンは、ボタン鍵盤式で、その中でもベルギー配列の楽器。この種類のアコーディオンを演奏するのは、現在、日本において桑山哲也氏ただ一人です。右手の親指以外の四本の指で 92 個のボタンを押してメロディを出し、左手では単音や和音が出せる 120 個のボタンを押しています。重さは 13 キロを超え、しかも常に両手で蛇腹を押し引きして空気を送り込まないと音が出ません。アコーディオンを演奏するのはとても大変なのです。



蛇腹は何からできているの？

蛇腹の材質は何と「紙」！ 高い温度と湿度で 100 万回の開け閉めを繰り返すことは、無謀以外の何物でもありません。しかし紙だけでは強度面が十分でない為、布で周囲が補強されています。長期間、放置したままにしておくと、この紙の部分にカビがついたり、虫に食われたりしてしまう事があり、空気漏れの原因となります。また無理に引っ張ると紙が破れ、これもまた空気漏れの原因となります。とてもデリケートな楽器です。

***** 曲目紹介 *****

♪ 『シェルブールの雨傘』

1957 年アルジェリア戦争のさなかフランス北部の英仏海峡に面した港町シェルブールを舞台にしたフランス映画の主題曲。ポール・モーリア・グランド・オーケストラの演奏で耳にされた方も多いと思います。

「シェルブールの雨傘」は、日本で舞台化もされています。2000 年の V6 坂本昌行 さんの舞台をご覧になった方もいらっしゃるのでは？

傘屋の娘ジュヌヴィエーヴと工員の青年ギイの恋が、アルジェリア戦争によって引き裂かれ、互いに愛し合いながらも、別々の道を歩くまでを描いた悲恋劇。台詞というものは無く、全編、歌によってストーリーが進行していきます。

この映画音楽を手掛けたのは、フランスの作曲家ミシェル・ルグラン。カンヌ国際映画祭でパルムドールを受賞しました。



【あらすじ】

傘店の娘ジュヌヴィエーヴと車の整備士ギイは恋人同士。仕事が終わったあと、ふたりは劇場に行ったりダンスに行ったりデートを楽しみ、「子どもが生まれたら、フランソワーズという名前にしましょう。」「傘屋をしましょう。」「ガソリンスタンドをやろう。」などと話していました。しかし、ジュヌヴィエーヴの母は、まだ若すぎるふたりの結婚に反対していました。

そんな時、ギイが兵役でアルジェリアへ行くことが決まりました。一度戦線に行けば、2年は戻れません。離れがたいふたりは、残された時間を惜しむように一夜を過ごしました。

ギイが旅立って数ヵ月。ジュヌヴィエーヴはギイの子どもを妊娠していることがわかりました。ジュヌヴィエーヴはギイを待ち続けていましたが、手紙も途絶えがちになり、寂しさは募るばかりでした。

やがて除隊したギイは、負傷した足を引きずりながら、まっすぐ、ジュヌヴィエーヴの雨傘店に向かいました。しかし、そこには店もなく、彼女の姿もありません。彼女は別の男性と結婚していました。

時は流れて、1962年。ギイは結婚し、息子フランソワが生まれ、幸せな日々を送っていました。雪が降るクリスマスイヴの日。ギイが経営するガソリンスタンドに、一台のベンツが入ってきました。運転席にはかつての恋人ジュヌヴィエーヴが、助手席にはふたりの子どもであるフランソワーズがいました。彼女は「あなたによく似ているわ」と娘のことを話し、給油を終えた車は静かにスタンドを出て行くのでした。

♪♪ 『子供の領分』

1905年、ドビュッシーに女の赤ちゃんが誕生しました。かわいい赤ちゃんは、シュウシュウ（かわいい子、ペットの意味）という愛称で呼ばれました。彼女はとても聡明な女の子で、子煩悩なドビュッシーは、シュウシュウをとともかわいがりました。彼が自分の感情を表に出すのは彼女と一緒にいる時だけだったとも言われています。

1908年には、シュウシュウの誕生日プレゼントとして、かわいらしいピアノ小曲「人形のセレナード」を完成させました。これはピアノのための組曲『子どもの領分』におさめられた6曲の中の1曲。ドビュッシーは、娘のおもちゃからこの名曲の曲想を得ました。

『子どもの領分』の第1曲「グラドゥス・アド・パルナッスム博士」は、クレメンティの練習曲集『グラドゥス・アド・パルナッスム』（パルナッスム山への階段）のパロディであり、練習曲に挑戦する子供の姿を生き生きと描いたものとされます。退屈な練習に閉口する子供の心理を、巧みに現した興味深い曲となっています。

第2曲「ジャンボ（象）の子守唄」は、シュウシュウの象のぬいぐるみを、第4曲の「雪は踊る」は、外で遊ぶことを禁じられた子どもが部屋で過ごす退屈な一日を描写しています。

最も有名なのが、第6曲の「グリウォッグのケーキウォーク」。グリウォッグ（Golliwog）とは、フローレンス・アップトン（Florence Upton）の絵本に登場する黒人の男の子人形のキャラクターの名前で、ケーキウォークは黒人のダンスの一種。前にドビュッシーがロンドンの町で聴いたジャズ風の音楽を自分流にアレンジしたものです。

このピアノ組曲は、1908年12月に出版されました。

***** 作曲家ドビュッシーについて *****

天才ドビュッシー

クロード・アシル・ドビュッシー（1862～1918）は、パリ近郊の町サン・ジェルマン・アン・レイに生まれました。貧しい家に生まれたドビュッシーは小学校にも通わせてもらえず、引っ込み思案な少年でした。ドビュッシーは額が少し突き出ている、ちょっと変わった顔をしていました。ドビュッシー自身も成長するにつれてそれを気にし

はじめ、前髪をおろして額を隠そうとようになりました。この特異な容貌のせい
か、ドビュッシーはとても内気な少年でした。

ドビュッシーを最初に音楽の世界に導いたのは、伯母のクレマンティーヌでした。
ドビュッシーのずば抜けた才能を見抜いた教師は、レッスン料もとらず、熱心にピアノ
を教えました。

そして、一年後の 1872 年秋、有名なパリ音楽院にわずか 10 歳で入学しました。
しかも、最年少者でありながら、国家奨学生にまで選ばれたのでした。

パリの音楽院に在学中も相変わらず内気で無愛想で、とっつきにくい学生でした。
しかしピアノを前にするとがらりと一変し、鍵盤におそいかからんばかりの勢いで、
乱暴とも思えるくらいの熱っぽい弾き方をするのが彼の特徴だったといえます。



ドビュッシー27歳の頃のパリ

1889 年、パリの公園シャン・ド・マルスの突き当たりに鉄製の高い塔が完成しました。そう、これはあの有名な
エッフェル塔。

この年、パリで万国博覧会が開かれるため、当初の計画では、一時的な展示作品として建設されました。しかし、
エッフェル塔はパリのシンボルとなり、いまでも変わらず 320 メートルもの高みから
市街を見下ろしています。



万国博覧会では、世界各国の芸術、民族音楽、民族芸能などが披露されました。パ
リは興奮に沸き立ち、世界中から旅行者がどっと押し寄せてきました。

ドビュッシーも友人とともに会場に足を運び、ハンガリーのジプシー音楽やヨーロ
ッパ、アジア、アフリカの民族音楽を初めて聴きました。

日本からは雅楽の“笙”も出品されました。楽器と一緒に五線紙に笙の和音が紹介
され、それを見たドビュッシーは「これはすごい和音だ！」と愕然としたそうです。

これらの貴重な経験が若いドビュッシーを刺激し、新しい形式の音楽を生むヒント
を与えました。

カフェ《黒猫》



モンマルトルにあるカフェ《黒猫》は、タバコの煙が充満する、にぎやかなカフェ。そこはさまざま
なジャンルの芸術家たちのたまり場にもなっていました。ドビュッシーが、生涯の友となるサティと
出会ったのも《黒猫》でした。ドビュッシーは、昼間、読書や恋人との時間にあて、夜になると、カ
フェにくりだし、芸術家仲間と議論を戦わす毎日。作曲には、残りの時間があてられました。

ドビュッシーの恋

1903 年の終わりごろから、ドビュッシーは、裕福な銀行家バルダック家の息子の個人レッスンをしていました。
バルダック夫人エンマは知性と教養にあふれた美しい女性で、上流社交界ではアマチュア歌手として知られていま
した。ドビュッシーは結婚していたものの、エンマに対して特別な感情を抱くようになりました。お互いに夫がいて妻
がいる身だとわかっていながら、つるる気持ちを抑えることができませんでした。

1904 年の夏、ついにドビュッシーとエンマは駆け落ちし、ジャージー島に向かいました。海と新鮮な潮風を楽し
み、ふたりは恋を貫いた喜びに浸りました。

この年は、ドビュッシーにとって最高に幸せな年だったかもしれません。曲想が泉のごとくあふれだし、創作意欲も
ふつつつとわき上がってきました。そして、あふれんばかりの喜びの感情をみごとに表現したピアノ曲『喜びの島』
が完成しました。

<参考文献>

渡辺芳也『アコーディオンの本』(株式会社 春秋社、1993年)

ロデリック・ダネット 著、橘高弓枝 訳『伝記 世界の作曲家⑧ ドビュッシー』(偕成社、1998年)

トーマス・ポル 文、ハイケ・プランゲ 絵、宍戸里佳 訳『楽器の絵本 クラリネット』(カワイ出版、2006年)

東儀秀樹『雅楽』(集英社新書、2000年)

YAMAHA「鳴るほど♪楽器解体全書 クラリネット」

<http://www2.yamaha.co.jp/u/naruhodo/04clarinet/clarinet1.html> (閲覧日：2010/5/11)

アコーディオンのいろいろ <http://www.accordion.jp/yaneura/iroiro.htm#bc> (閲覧日：2010/05/23)

映画「シェルブールの雨傘」

http://www5b.biglobe.ne.jp/~sasuraib/sub5_zatsu/eiga/amagasa.htm (閲覧日：2010/05/23)

「シェルブールの雨傘」

<http://theaterbrava.com/public/play/201001cherbourg.html> (閲覧日：2010/05/23)

いかがでしたでしょうか？

ご意見・ご感想、リクエスト等ありましたら、

viva_arte_2010@yahoo.co.jp にメールください！！

お待ちしております♪

担当：現代教養学科 3年 Viva Arte 編集部